



題字 井口 文章  
再刊 第302号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2019

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：錦城祭まで残りわずか！  
各クラスの準備も大詰め  
二面：編集部1年生による独自取材  
五川上水と小羊の関係も歴史を特集

# 誰もが輝く2日間に

## 錦城祭まであと2日

待ちに待った錦城祭まであと2日に迫った。今年のテーマ「星河一矢(新時代の輝き)」をスローガンに、本番に向けて着々と準備を進める錦城生たち取材した。(編集部共同取材)



血の手形の演出を和気あいあいと進める1Gの生徒

### 1G 謎解きお化け屋敷

1Gのクラス企画は「謎解きお化け屋敷」。クラス企画係の川千智さんは準備について「今は皆が積極的に協力してくれま

すが、初めはクラスをまとめるのが大変でした」と話す。今年から規制が緩和され、お化け屋敷企画ができるようになった。同じくクラス企画係の中村愛華さんは「今年からのルールなので怪我などが発生しないよう、安全面に気を付けたいです」と語る。教室を暗くしてはいけないため「真っ暗に見えるように、暗い色のビニールを張った眼鏡を用意しました」と工夫を見せた。本番に向けて「迷路の構成にも力を入れたので、みんなが楽しんでくれるお化け屋敷にしたいです」と意気込んだ。

### 2A アイススミージー

2Aのクラス企画は「小平アイススミージー」。小平産のブルーベリーや梨のスミージーの上にアイスクリームをのせ、さらにトッピングをするという盛りだくさんの一品だ。企画係の林由佳さんによると、当初の予定だったチョコロスが、他のクラスと重複し



クラスで作成中のポスター

てくれる人に喜んでもらえるようなものを作りたいです」と笑顔で話してくれた。

### 2K ジェットコースター

2Kのクラス企画は「2Kの理Kコースター」。「第1希望の飲食企画が落ちてしまったので、皆の意見から出たジェットコースターになりました」と企画の責任者の乙津広都くんは振り返る。他校が文化祭で作ったものを参考にしながら、夏休み明けから準備を始めた2K。コ

### 3K 演劇

3Kのクラス企画は、担任の中村聡子先生が推薦したという演劇「ナツヤスミ辞典」。1日だけの教室の外装など、見放課後にクラスで準備をするべきポイントがたくさんある。渡邊くんは「幽霊が出てくる場面もあり、ファンタジー性が強いので、とても面白い劇なのでぜひ見に来て下さい」と語った。劇の後半にあるキョトンとするシーンや、宇宙空間をイメージしている。URLを3Kの生徒に聞けば見られるので、ぜひチェックしてみよう。

## 吹奏楽部 新宿駅前パレード

8月31日(土)に新宿駅前パレードが行われた。乃木坂46の元メンバー生駒里奈さんが1日署長を務めたこのイベントに吹奏楽部も参加し、パレードとステージで演奏を披露。昨年は雨で中止となってしまうため、今年が初の参加となった。今回のパレード運営を担当する



沿道で多くの人が演奏に聞き入った

新宿警察署の方が実は錦城卒業生で、声を掛けてもらったことが参加のきっかけだったという。メジャーの久保勇人くん(2J)は「新宿駅前というところで人がたくさんいました。緊張はしませんでした」と本番を振り返る。反省点は、歩くうちにペースが遅くなり、前との幅が広がってしま

ったこと。「10月に行われる小平市民まつりでのパレードで改善したいです」と意気込んだ。現在は錦城祭の練習をして吹奏楽部。1日目に演奏会を控えている。部長の浜野佳穂さん(2J)によると、様々な曲の中でも2日目に披露する『アラジン』が見どころだそう。最後に「錦城祭当日の本番に向けて練習を頑張りたいです」と話した。(終)

## 駐車場前のフェンスが完成!



ブロック塀に代わり新たに設置された

## 本番直前! 多忙な実行委員会

錦城祭実行委員会は本番に向けて準備を進めている。委員長である森彩葉さん(2M)に話を聞いた。森さんによると、今年の実行委員会はかなり手早く準備が進んでいる。予定より早いので、昨年の実行委員会での反省を活かしていると感じます」と話す。今までの活動で苦労したことと尋ねると、森さんは「あまりないです」と笑う。「人が多く、1年生も積極的なので強いて言うなら仕事の振り方

## 最後まで活躍! 陸上部夏の大会

8月31日(土)、9月1日(日)に行われた第71回東京都高等学校新人陸上競技大会と貝瀬さん。3位という結果に、貝瀬さんは「自己ベストを出したので嬉しいです」と笑顔で話した。緊張しがちという貝瀬さんは仲間と話しながらリラックスするようにしていたという。今後に向けて「今は都大会8位入賞を目指しています。最終的な目標はインターハイや関東大会です」と意気込んだ。(杏)

## 大会報告

陸上競技部  
8月31日(土)・9月1日(日)  
▽第71回東京都高等学校  
新人陸上競技大会第5・6支  
部予選会  
男子6支部100M5位  
岩川雄斗(2A)  
女子6支部やり投3位  
貝瀬彩花(1D)  
卓球部  
9月8日(日)  
▽全日本ジュニア選手権大会  
6回戦敗退 根木悠貴(2B)  
4回戦敗退 仲井陽哉(2D)  
4回戦敗退 豊田一翔(2G)

## 生徒会動静

9月8~9日  
図書委員会  
中央委員会  
9月11日(水)  
図書委員会  
随時活動中

## むらさき草

家族でビュッフェを食べに行った時の話だ。お皿の上に食べようとしていた野菜がまだ残っていた。しかし、お店の人は「食べないだろう」と考えたのか、お皿を持って行ってしまった。近年、「食品ロス」という言葉が世間を賑わやがっている。「食品ロス」とは売れ残りや、消費・賞味期限切れなどで、本来食べられるはずだったものが処分・廃棄されることを意味する言葉だ。2018年現在、日本の食品ロスは年間646万トンにのぼる(環境省HPより)。どのくらい膨大な値なのかを確かめるため、お茶碗1杯分の白米(150g)に換算してみたところ、430万杯に相当することが分り、度肝を抜かれた。この課題は海外でも問題となっており、解決へ様々な取り組みが行われている。例えばフランスでは2016年に食品廃棄禁止法が制定され、売れなかつた商品はボランティア団体に寄付することが義務付けられた。日本では今年5月、食品ロス削減推進法が制定された。この法律は国や地方公共団体の食品ロスに関する責務を明文化したものだ。削減推進へとつながるものだが、法的拘束力はなくあり具体的な活動にはつながっていないのが現状である。錦城の地元小平市でも昨年、家で余った缶詰や飲み物などを市民みんなで持ち寄り、福祉団体やフードバンクへ寄付する「フードドライブ」という新たな試みが実施された。しかし、国や地方公共団体などの取り組みは大事だが、やはり私たち一人ひとりの心掛けなしでは、この問題を解決することは難しい。「自分1人じゃなんも変わらない、自分とはなにも関係ない」という他力本願な考えをやめ、主体的に行動することが必要不可欠だ。明後日からの錦城祭でも多くの食品が販売される。売る側も買う側も食品ロスを生まないように心がけてみてはどうだろうか。(李)

## 「司会による企画も見所です」

森さんは「自分たちが動かしているんだという意識をもって、みんなが楽しめる環境を作りたいです」と意気込む。また、生徒に「残り少ない準備期間ですが、間に合わせられるように頑張ってください」と呼びかけた。

## 後夜祭実行委員長

錦城祭2日目16時半から行われる後夜祭について、後夜祭実行委員長の吉田悠人くん(2C)に話を聞いた。「無事に後夜祭が終えられよう頑張ります。ぜひ最後まで楽しんでください」とメッセージを送った。(薊・松)

## 「都大会も頑張ります」

岩川くんは「予選・準決勝と勝ち上がり、決勝に進出することが目標です」と語った。同大会で貝瀬彩花さん(1D)が女子6支部やり投で3位を受賞した。大会に向けて

# 【特集】小平に恵みを与えた玉川上水

あなたは、小平を横切るように流れている玉川上水について、知っていることはあるだろうか。玉川上水は江戸時代に開通した上水であり、江戸や小平を含む武蔵野台地やそこに住む人々に大きな恩恵を与えたという。玉川上水の歴史や小平との関連性を調べてみた。

(1年生共同取材)

## 安定した水の供給を求めて

江戸時代、日本の中心地であった江戸の人口は、参勤交代などを理由に増え続け、水の需要は高まるばかり。安全な生活を維持するためには、水を安定して確保することが必要不可欠であった。

そこで、江戸へ生活用水



玉川上水の上流部・羽村の様子  
玉川上水はここ羽村取水堰から4.3kmもの間流れていく

を供給するために、多摩川から水を引く玉川上水開削事業が行われることになった。その指揮を執ったのが、後に玉川兄弟と呼ばれる庄右衛門とその弟、清右衛門である。

玉川上水を開削する地域は、多摩の羽村から四谷までの全長約43キロメートル。水を流すためにはある程度の高差が必要だが、玉川上水が通っている地域は10メートルに達して、わずか20センチの勾配しかない。それにもかからず上水を完成させた技術は、世界最高レベルといわれている。しかし、上水工事は2度の失敗があったという。1回目は、日野を取水口としたときに、水噴土みずくら

## 水道の歴史を伝える上水記

御茶ノ水駅から徒歩8分のところにある東京都水道歴史館。ここには江戸時代の神田上水と玉川上水の様子が記された「上水記」が所蔵されている。水道の江戸時代から現代までの発展を展示物や模型などから学ぶことが出来る。

上水記は1788年から1791年にかけて、江戸幕府の役職の1つであった、普請奉行上水方道方の石野遠江守広通によって編集された古文書。江戸上水(江戸を流れていた6つの上水の総称)の概要や、江戸上水である青山、亀有(本所)、三田、千川上水の大

## 人と自然を繋ぐ「ちむくの会」

小平には、玉川上水への関心の輪を広げる活動をしている「ちむくの会」という団体がある。そこで実際に玉川上水沿いの道を歩きながら、メンバーのリー智子さん、小口治男さん、加藤嘉六さんに話を聞いた。ちむくの会は、玉川上水に関係する場で活動していた4人のメンバーにリーさんが声をかけ、2013年の6月に結成。きっかけは玉川上水を横断する道路開通の反対を考えたことであるとい



玉川上水は水と緑の大動脈です

知りたい人と知っている人を繋げるため、玉川上水についてのパンフレットを作ったり、自然と関わる企画を実施したりしている。またリーさんは「玉川上水を中心に様々な団体が協力しながら活動しています。玉川上水には、人々を惹きつける力があると思っ

## 玉川上水を見守る喫茶店



玉川上水沿いにあるCafé シントン。店主の西村智子さんによると、西村さんの先祖は玉川上水を守る運動に参加していたそう。Café シントンでは、美味しい珈琲とデザートを楽しめる。鷹の台駅に來たら、この喫茶店で一息ついてみてはどうだろうか。(卯)

## 小平と玉川上水の関連性

小平の名前の由来は、小川の「小」と小平の平らな地形の「平」という2文字からきていて、小平と玉川上水の歴史について、前述の東京都水道歴史館の職員である金子智さんに取材した。

100万人都市であった江戸全域に整備された玉川上水。武蔵野台地は主成分が火山灰で、水持ちが悪く栄養が少ない関東ローム層が広がっていたため、かつて農業を行うことが出来なかったとい

### 元錦城生が話す小平

小平は、江戸時代に小川九郎兵衛によって開かれた。当時、九郎兵衛と共に小平を開拓した十一の家の当主をまとめて十一人衆と呼ぶ。その十一人衆の中に山崎家という家がある。実は、錦城高校45回生で新聞委員長だった乙黒愛



幼少時代の小平の様子を語る登代子さん

美さんはこの家の子孫。それを知り、取材班は山崎家の30代目当主で愛美さんの母である乙黒登代子さんと、愛美さんに小平の昔の様子について話を聞いた。

登代子さんが幼かった頃の小平は、辺り一面に野菜畑が



実際に使われていた用水路

だ。小平で採れる「うどん」について登代子さんは「太くて長く、真っ白な所が特徴です」と誇らしげに語る。農家が丹精込めて作った小平うどんは、農家自身が作った木箱に入れて江戸に売りに行ったという。登代子さんは父親が自宅の2階で、出荷時に用いる木箱を、とんちんかちで打つ「とんとん」という音が忘れられないと懐かしんでいた。

登代子さんは現在の小平の「景色が優しい」所を挙げる。

## 上水開通前の食生活



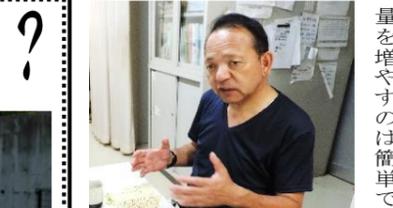
よしふじで一番人気の肉汁うどん

西部に伝わるうどんのこと。東村山方面に多い肉汁うどんと小平方面に多い糧うどんの2つが主流となっているという。また、他のうどんよりも麺を使っていたり、その小麦を使ったうどん作りが盛んになっていったという。うどんという視点から小平と玉川上水の関連性について探るため、小平市内のうどん屋やうどん生産についてよく知る人物に取材をした。

最初に訪ねたのは、錦城20回生である斎藤吉之さんが営む「よしふじ」だ。地元の人以外にも、錦城生やFC東京の選手がよく利用するそう。よしふじでは武蔵野うどんと呼ばれる種類のうどんが販売されている。武蔵野うどんとは、東京都多摩地域と埼玉県

が硬く歯ごたえがあり、地元産の粉を使用しているため少し黒っぽいという特徴を持つ。

斎藤さんによれば、うどんの生産が盛んだった小平では、昔からお祝い事やお葬式などの冠婚葬祭の締めとして武蔵野うどんを食べる習慣があったそう。



小平市で数少ない小麦農家の浅見さん

小平の昔ながらのうどんをぜひ一度味わってほしい。(鴻)

## かなしい坂と名付けられた由来は?

京王線多摩霊園駅から徒歩5分の所に、かなしい坂という坂がある。上水開削当時、この坂付近には玉川上水が通る予定であった。しかし工事がこの坂まで達したとき、引いてきた水が全て地面へ染み込んでしまい、工事は失敗してしまったそう。工事に関わった役人の1人が、失敗の責任を問われて処刑。その際に、役人が「かなしい」と嘆いたことから、この坂に「かなしい坂」の名が付けられた。



かなしい坂と呼ばれる場所

かなしい坂と玉川上水の関連性についてさらに詳しく調べるために、私たちはふるさと府中記念館に足を運んだ。府中市の広報を担当している中山真治さんによると、かなしい坂は府中付近に多数あるムダ堀という大きな溝と関係性があるといわれているそう。「このムダ堀は『かつて江戸時代に玉川上水をここに掘ろうとして失敗したもの』ではないかという説があります。しかし水を流した跡がないことから、玉川上水との関連はないのではという意見も出ています」と中山さんは語った。明確な玉川上水開削に関する記録がないことから、どの説も曖昧なものとなっているそう。

(雀)

【参考文献】東京都小平市公式HP 小平の歴史・文化・市の誕生 <https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/023/023249.html> こだいら KID'S ぶるべーの散歩道 小平が誕生するまでの歴史 <https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kids/017/017984.html>